

センター通信



対話から生まれた「カラフルな教育」

伊丹市教育委員会事務局 総合教育センター
指導主事 窪田 えみか

令和6年、総合教育センターでは30周年を迎えた同9月、子どもたちの学びの姿や先生方の声をもとに授業づくりを軸に「未来につながる教室」のイメージを「カラフルな教育」として描きました。そして、その理念を「ちがいを豊かさにつなげる教育」という言葉に込めました。以来、私は各学校を訪ね日々の教室で「未来の芽」がどのように育っているのかを“カラフルな視点”で探しています。

多様化する子どもたち、予想以上の速度で変化する社会。教育とは何か、学校の役割とは何か—先生方は悩みながらも、子どもたちの幸せを願い日々教育活動にあたっています。「子どもたちがこの先の人生を幸せに生きるため、どんな力が必要なのか」。目の前の子どもが一人ひとりちがうように、答えも1つではない。先生方もまたその問いに向き合いながら授業を行っています。

思い返せば私自身もコロナ禍の一斉休校や家族の看取りを経験する中で、学校の存在って何なのか問い続けてきたのかもしれない。休校明け急に成績が伸び熱心に学ぶ子にどうしたのかと聞くと、「自分の希望する進路のため、休校中に自分でわからないところから勉強をやり直した」と言われました。教師の役割は“できるようにすること”ではなく、“どんな状況でも学び続ける子どもを支えること”なのかもしれないと思うようになりました。コロナ禍において「限られた時間」に必死で向き合う子どもたちの姿に、学校とは、多様なちがいをを持った人が集まり、互いに考え、気づきを共有できる、本当にかげがえのない場所だとあらためて思いました。そして、総合教育センターはそんな学校や先生を支える存在でありたい、その先には子どもたちの未来がある、そう確信するようになりました。

「カラフルな教育」を形にする過程では、センターの先輩方と何度も語り合いました。「カラフルってどういうこと？ 大切なことは何？」—迷いながら真剣に重ねた対話から、互いの思いや考えをつなぎ合わせ、「先生同士が、ラーニング・コミュニティを通して緩やかにつながるシステム」を作りたいと考え、推進しています。また、対話を重視し、教員研修や校内研究支援にあたっています。中にはPTAや図書館、地域との連携なども見られ、社会教育の支えも大きく、教育は社会総がかりで取り組むものだと感じます。

伊丹の先生方はすごい。毎日の教室で、カラフルな学びは少しずつ芽を出しています。公教育は今大きな転換期にありますが、伊丹の先生方なら大丈夫だと信じています。子どもたちの幸せ、未来につながる伊丹の教育をめざして、これからの一歩も先生方と共に。総合教育センターは、地域と共に学び続ける先生方を全力で応援しています。

*ラーニング・コミュニティ＝先生同士が対話や協働を通じ互いに学び合うネットワーク

補導活動・相談活動・有害図書回収状況

R7.4.1～R8.2.28

()内は前年同期確定値

補導活動	—暫定値—	幼児 / 小学生	中学生	高校生 / その他	大人	
あいさつ		32,703 (28,912)	2,147 (2,066)	892 (959)	6,206 (5,022)	
声かけ / 会話等		4,006 (3,414)	778 (603)	392 (429)	1,042 (1,158)	
(内) 問題行動	遊びに関すること	84 (64)	54 (34)	42 (45)	6 (10)	
	交通に関すること	136 (164)	42 (42)	63 (65)	62 (116)	
	その他	81 (156)	55 (24)	57 (69)	27 (32)	
相談活動	電話相談	27 (37) 件	来所・訪問相談	41 (44) 件	メール相談	8 (13) 件
有害図書 回収状況		有害図書	1,456 (1,119) 冊	有害AV等	2,977 (3,126) 個	

補導活動 (R7.4.1～R8.2.28) について

- ・「声かけの内の問題行動」として顕著であったのは、あいかわらず小学生の下校時の横隊通行、次いで、その他（薄暮時の帰宅促進）等であった。
- ・帰宅促進では、ゲームセンターにおける帰宅促進も多くなっている。
- ・横隊通行では、その7割以上を小学生が占めており、特に下校時に目立つことから、その時間帯における補導活動を重点的に取り組んでいる。
- ・「自転車(ながらスマホ)」については、その半数以上を高校生が占めているが、令和8年4月1日に施行される改正道路交通法「自転車への交通反則通告制度」により減少することが期待される。
- ・信号無視についてはその8割以上を、自転車の無灯火についてはその7割近くをいずれも大人が占めており、声かけによる注意喚起をしても、その多くが無視をして走り去っており、大人の規範意識の低さが少年に与える影響が大きいものと思われる。

相談活動 (R7.4.1～R8.2.28) について

- ・相談種別の件数は、前年同月比 -18 件、①来所・訪問 [41 件(-3)]、②電話 [27 件(-10)]、③メール [8 件(-5)] 相談の順となっている。[() は前年増減]
- ・月別では、①7月 (10 件)、②5月 (9 件)、③11月と12月 (各8 件) の順に多い。
- ・相談者別では、①保護者 (母親)、②男子中学生、③保護者 (父親) の順に多い。
- ・対象者別では、①小学生、②中学生の順に多く、いずれも男子が大半となっている。
- ・相談内容では、昨年は「家庭・子育て」が突出していたが、本年度は「非行・不良行為」がそれを上回る結果となった。
- ・「非行・不良行為」は、警察に検挙、補導された児童への非行防止、健全育成を目的にしたものが大半であるが、触法少年の「わいせつ事案」に対するものも増えている。



お子さんに関してご心配事等がありましたら、相談窓口へ気軽にご相談ください。

2月の事案

(ひょうご防犯ネット情報 - 2/1～28 掲載分 -)

日	時刻	場所	事案	概要
2	18:15	野間1	つきまとい	店内で買い物中の男子中学生に対して、男が無言でつきまとった。 ☆ その後、伊丹警察署員が行為者を特定し、解決した。
6	☆ 1/29	阪急伊丹駅付近の路上	発生した女子中学生に対するつきまとい事案について、その後の捜査の結果、解決した。	
13	21:35	西台1	つきまとい	徒歩で通行中の女子高校生に対して、男が無言で後方からつきまとうなどした。
26	15:30	池尻6	つきまとい	徒歩で通行中の女子小学生に対して、男が後方からしばらくの間つきまとった。
26	17:00	昆陽東1	不審者	男が、草刈り鎌のようなものを公園内の水飲み場で洗い、自転車に乗って立ち去った。

3月の予定



4(水)	兵庫県青少年補導委員連合会 会長・副会長会	10(火)	一斉補導街 (鈴原・瑞穂)
6(金)	伊丹市少年補導委員連合会 役員会	(随時)	街頭補導活動 (各小学校区)
6(金)	伊丹市少年補導委員連合会 定例理事会		中学校区内補導活動 (各中学校区)
10(火)	広報啓発活動(池尻・花里・天神川)		電話・来所・メール相談 (少年愛護センター)

「センター通信」へのご意見ご感想を、伊丹市立少年愛護センター (Tel.072-780-3540) までお寄せください